



学校だより



校訓「質実剛健」

学校教育目標「心豊かで自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

全国学力学習状況調査・県基礎学力調査（3年生対象4月実施）の分析と改善策

本年度4月に全国学力学習状況調査（国語・数学・英語・質問紙調査）県基礎学力調査（社会・理科・質問紙調査）が行われました。全国学力学習状況調査では、生活に関して学習意欲、学習方法、学習環境などを問う質問紙調査も行われました。本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。以下に主たる分析と改善策をお示しします。

国 語

特に正答率が高かったのは、自分の考えがわかる文章になるように、根拠を明確にして書くことが書けるかどうかを見る問題である。

正答率がやや低かったり無回答率が高かった問題は、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題である。

- ・文章を丁寧に読む姿勢を大切に、読むことに慣れさせる。
- ・複数の文章を読み比べる練習をさせる。
- ・問題文や条件に注意するよう指導する。
- ・書くことに抵抗感をもたないように、簡単な問題から書くことの回数を増やす。

社 会

特に正答率が高かった問題として、歴史的分野で幕末におこった歴史上の事象を問う問題である。

正答率が低かった問題は、地理的分野で、世界の気候と特色から雨温図を選択する問題である。無回答率が高かった問題は歴史的分野で、戦国時代の歴史上の事象を問う問題である。

- ・それぞれの人々の生活の様子と関連付けながら、知識の定着を図る。
- ・戦国時代の背景や特色を流れの中でつかませながら、知識の定着を図る。
- ・テスト等では、学習の振り返りを行いながら、学習内容を確認させる。

数 学

特に正答率が高かったのは、数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題である。

正答率が低かったのは、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題である。無回答率が高かった問題は、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題である。

- ・授業の中で数学的な用語を用いて説明させたり、記述させたりする。
- ・式が表しているものが何か言葉で表現させる。
- ・証明を書く練習をしっかりとさせる。

理 科

特に正答率が高かったのは、「粒子」を柱とする領域で気体の性質を基にした実験方法の構想と結果の見通しを問う問題である。

正答率が低かった問題は、「生命」を柱とする領域で対照実験の名称を問う問題である。無回答率の高かった問題として「粒子」を柱とする領域で水を入れたペットボトルを用いて気体を区別した結果の問題である。

- ・重要な語句を学んだあとの授業等で小テストを行い、定着を図る。
- ・何について問われているのかを意識させながら問題演習に取り組ませる。
- ・気体の性質を感じることができるような場面を増やし、視覚的に性質を理解できる機会を増やす。
- ・条件制御の意義について確認し、実験を考えさせる中で統一する条件、異なる条件を明らかにさせながら、実験させる。

英 語

正答率が高かったのは、情報を正確に聞き取ることができるかどうかを見る問題である。

正答率が低かったり無回答率が高かった問題は、「相手の行動を促す」という言葉の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかを見る問題である。

- ・キーワードを用いて、正しく文章を書く機会を増やす。
- ・文章構造を意識させ、様々な場面で使用することができるように促す。
- ・様々な場面をし、繰り返し使用し、練習するようにさせる。

質問紙調査より

国県よりポイント（％）が高いもの

- ・学校が好きだ
- ・学校に行くのが楽しい
- ・読書は好きだ
- ・道徳の時間は好きだ
- ・将来の目標や夢を持っている
- ・人が困っているときは進んで助けている
- ・進んで地域の行事に参加している

国県よりポイント（％）が低いもの

- ・家で計画を立てて勉強している
- ・コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること
- ・家庭学習時間
- ・平日1日あたりにスマホ等でSNSや動画視聴をする時間

- ・本校の生徒は、学校が好き、楽しいと思っている生徒が多く、人が困っているときは進んで助けたいと思うなど仲間を大切にしている生徒が多い。
- ・授業での協働的に答えを導いたり課題を解決することは楽しいと感じているが、自分の考えを伝えることや、他の意見をじっくりと聴くことを苦手としている生徒も少なくない。授業が楽しいだけでなく、自分と異なる考えに触れることなどで理解が深め、学力の定着につながるように指導していく。
- ・スマホ等でSNSや動画視聴をする時間が長い生徒が多く、その分、家庭学習時間が短くなっている傾向がみられる。普段から自分の学習の取組状況を振り返り、計画的な学習を習慣づける指導を行っていく。